

### 第3回 航空大学校のあり方を考える検討会（議事概要）

平成24年7月18日

1. 航空局長の挨拶及び事務局による説明後の各委員からの主な発言は以下のとおり。

○適正な養成規模については、航空業界を巡る環境の変化等の不確実性を踏まえつつ、判断していくことが必要

○日本の航空会社が、厳しいコスト競争、国際競争の中で打ち勝つ体制をつくるためには、自社養成によることは困難であり、航空大学校等のパイロット養成に軸足を置きながらやっていくべきこと

○私大との連携について、今後の取組の中で、航空大学校の主要施策についてワーキンググループをつくって、議論を深めてまとめていく中で整理すること

○航空大学校のプログラム、養成スキームの有効性について、安全面など多様な観点から説明したほうがよいこと

2. オブザーバーである航空会社から以下の点について発言があった。

○パイロットの質を高めることによって事業者の安全性が高まるという視点から、操縦技術以外の養成が今必要であること